

## ● 制作

# しあわせの種 ~高齢化地域社会における福祉のための ランドスケープ~

南雲 美波

園芸学部 緑地環境学科 環境造園学プログラム (主指導教員: 武田 史朗)

NAGUMO Minami

## 1. 背景と目的

日本の人口減は 2011 年に始まり、今後も長期にわたり人口減少が見込まれている。そして現在、日本の総人口の 29% が 65 歳以上となり、2070 年には 38.7%になると言われている<sup>1)</sup>。少子高齢化に伴い、老人ホームは不足状態となり、年々増加している。しかし、増加する高齢者に伴い、ただ施設数を増やせば良いというわけではない。地域社会と老人ホームが分断され、地域に馴染まず孤立しているケースも少なくない。老人ホームは「施設」としてだけでなく「生活する場」でもあるため、施設の周辺環境や地域との関係性も十分に考慮する必要があると考える。また、老人ホームは社会的な孤立感や悲観的な雰囲気、高齢者への尊厳などへの配慮が不十分といったイメージから、出来る限り利用したくないと思う人が多い<sup>2)</sup>。これは、必然的に家族介護の負担の増加につながる。そこで本研究では、福祉施設を「生活する場」と再定義した上で、従来のイメージを変え、老人ホーム等の福祉施設のあり方について考えるきっかけとなるような、福祉施設と連動した公共的な屋外空間のあり方を提案する。

## 2. 対象地

対象地は東京都稲城市平尾にあるいなぎ正吉苑である。平尾では、子育て世代の住みやすいベッドタウンとして人口増加が続いている。一方、令和 2 年時点で、平尾は稲城市の中でも 65 歳以上の高齢化率が最も高く、今後はさらに上の 85 歳以上の高齢化率が高くなっていくと予想されている<sup>3)</sup>。また、平尾は丘陵地であることを活かし、果樹栽培が盛んであったが、近代以降の宅地開発により、その大半が住宅地へと変わってしまった。宅地開発による都市化と未だわずかに残る里山、これから増加する子育て世代と高齢者など、様々な要素が併存していることから、これらの適切な組み合わせを通じた老人ホームのあり方について提案できる可能性があると考え、本研究の対象地とした。

## 3. 方法

まず、日本の福祉施設の種類、現状への理解のための文献調査、加えて地域包括ケアに関する文献、福祉施設の設計資料の調査を行った。現地調査により、特に農地をはじめとする緑地、それらと住宅との関係性などの観点から周辺環境の理解を深め、また稲城市の歴史や土地利用の変遷についての文献の調査を行った。そして、地域包括ケアの考えを踏まえ

た上で、対象地の特性を活かした設計を行った。

## 3. 調査・分析に基づく提案の方向性

文献調査からは、現在の日本には核家族のみを想定した都市住宅が多く、高齢者との同居、近くで暮らすことは困難とされており、介護が必要となった時、自分が生活していた地域から離れなくてはならない場合が多いことが分かった<sup>4)</sup>。高齢者を地域から排除することは、その人自身は勿論、地域全体の活力が削られていってしまう。そして次第に、高齢者が暮らす老人ホーム自体が地域社会から分断され、世代の縦交流が減り、地域社会を成熟させることが出来ない問題を引き起こす。そのため、地域社会の中で共存できる仕組みを福祉施設の計画に組み込む必要があると考えた。また、人間の健康や幸福感には、社会的な役割を担うことや社会とつながっている自覚が特に重要である。長寿医療研究センター (2017) によれば、社会とのつながりが多い人ほど認知症の発症リスクが低い<sup>5)</sup>。以上から、今後の福祉施設の計画における課題は、介護が必要になった高齢者の手助けだけでなく、その人に出来ることや、地域の中での役割を与えることで、その人の社会的な価値を引き出し、存在の意義を自他ともに確認できる状況をつくり出すことではないかと考えた。

他方、対象地であるいなぎ正吉苑は学校や商業施設、住宅、農地など多様な空間に囲まれている。現地調査からは、特に対象地周辺に未だ残っている農地がある、住宅地にいくつかの公園があり、利用者が多いといった点が見出された。これらの特徴を、高齢者の農作業の参加、福祉施設の屋外敷地の地域公共空間化として福祉施設の計画に取り込むことで、上記の課題に対する一つの答え方を提案できると考えた。

以上の知見に基づき、対象地の歴史や現在の周辺の空間要素を活かし、老人ホームの敷地内でありながら、地域コミュニティの中心の場となり、社会との繋がりを実感することが出来るランドスケープを提案する。

## 参考文献

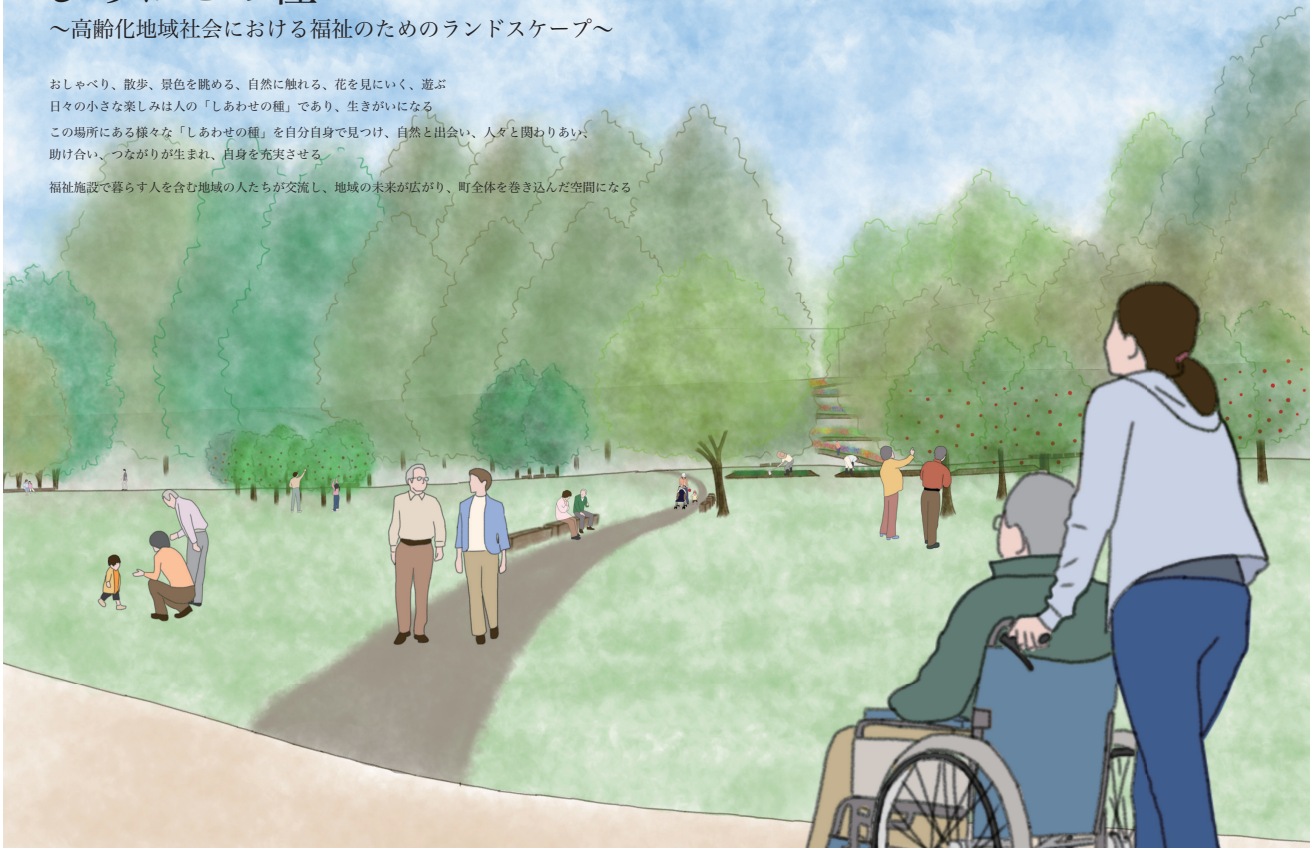
- 1) 内閣府(2023), "1 高齢化の現状と将来像", 令和 5 年版高齢社会白書
- 2) 株式会社ネオマーケティング(2023), "介護施設入居に関する実態調査 2023 年度"
- 3) 稲城市(2021), "(3) 地区別高齢化率の将来像", 稲城市介護保険事業計画 (第 8 期第 1 部)
- 4) 建築思潮研究所(1991), 建築設計資料 34 老人ホーム-高齢者の集合住宅, 建築資料研究社
- 5) 国立研究開発法人 国立長寿医療センター(2017), "社会との多様なつながり方がいる人は認知症発症リスクが半減", 報道発表 No:127-17-20

# しあわせの種

## ～高齢化地域社会における福祉のためのランドスケープ～

おしゃべり、散歩、景色を眺める、自然に触れる、花を見に行く、遊ぶ  
 日々の小さな楽しみは人の「しあわせの種」であり、生きがいになる  
 この場所にある様々な「しあわせの種」を自分自身で見つけ、自然と出会い、人々と関わりあい、  
 助け合い、つながりが生まれ、自身を充実させる

福祉施設で暮らす人を含む地域の人たちが交流し、地域の未来が広がり、町全体を巻き込んだ空間になる



樹木リスト

樹木種別	樹種	樹高	その他特徴
常緑樹	クスノキ	10m	幹が丸みのある樹形
	シラカシ	10m	幹が丸みのある樹形
	サカキ	10m	幹が丸みのある樹形
	クヌギ	10m	幹が丸みのある樹形
落葉樹	アサヒ	10m	幹が丸みのある樹形
	カシ	10m	幹が丸みのある樹形
	スズナギサ	10m	幹が丸みのある樹形
	クヌギ	10m	幹が丸みのある樹形
果樹	リンゴ	10m	果実が赤くなる
	梨	10m	果実が黄色くなる
	桃	10m	果実が赤くなる
	桜	10m	花が白くなる

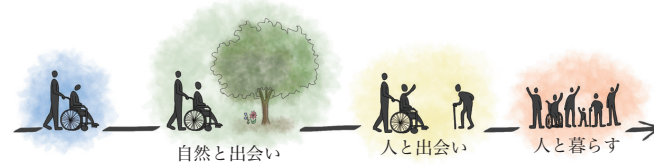
花リスト

花種別	花種	開花期	その他特徴
春	桜	3月	花が白くなる
	桃	3月	果実が赤くなる
	梨	3月	果実が黄色くなる
	アサヒ	3月	花が白くなる
夏	アサガオ	7月	花が赤くなる
	ヒマワリ	7月	花が赤くなる
	コスモス	8月	花が赤くなる
	百日草	8月	花が赤くなる

果樹リスト

果樹種別	果樹種	果実の色	その他特徴
リンゴ	リンゴ	赤	果実が赤くなる
	リンゴ	黄	果実が黄色くなる
	リンゴ	白	果実が白くなる
	リンゴ	赤	果実が赤くなる
梨	梨	黄	果実が黄色くなる
	梨	赤	果実が赤くなる
	梨	黄	果実が黄色くなる
	梨	赤	果実が赤くなる

敷地に広がる樹木、果樹、花は季節によって姿を変える  
 香りのする樹木、鳥が来る実のなる樹木、特徴的な形の樹木、  
 色とりどりの花達、収穫するのが楽しい果樹など  
 様々な自然との出会いが待っている  
 季節によって形を変える自然たちは、いつしか人の楽しみ、  
 生きがいになっていく



『自然と出会い、人と出会い、生まれるつながりから自身を充実させる』  
 老人ホームで暮らす人を含む地域の人たちが交流し、地域の未来が広がり、まち全体を巻き込んだ空間を目指した。  
 この場所にある小さな「しあわせの種」を自分で見つけ、自然と出会い、人々と関わり合い、助け合い、つながりが生まれ、  
 自身を充実させていく。そして、寂しい想いからではなく、「今の自分を見せたい」というプラスの気持ちから、家族との再会を  
 心待ちにし、この場で家族と素敵な時間を過ごす。  
 そのため、アクセス向上のための動線の確保、季節ごとに違った風景が楽しめるように様々な種類の樹木・花の設置、役割確保の  
 ための畑・果樹のエリアの設置、家族と過ごす宿泊施設の設置などを主に行った。

①森の中の団欒の家



②十人十色広場



③自然味わいのみち



④つながる畑、果樹のみち

